

(全体進行：教頭1)

1 校長挨拶

2 協議・交流 <②以降は運営協議会員の意見を中心に抜粋>

① 御嵩小のあゆみ・見通しについて（学校職員より）

- ・3月以降の予定について（教務主任）
- ・生徒指導について ・諸行事について ・学校評価について（教頭）
- ・学校経営方針について ・「こどものすがた」および懇談会の在り方について（校長）

② 御嵩小の行事について（以下、進行：運営協議会長）

- ・参観日を、複数の日時で分散させて行ったのはとても良かった。
- ・コロナ禍でも、いろいろなことを中止せずに、子どもに内容や方法を考えさせることで、何とかできる範囲でやっていこうという姿勢はすばらしい。
- ・卒業式では、親から子どもがよく見えるように待機場所を工夫したい。

③ コロナ予防について

- ・コロナのために〇〇ができない・・・という年だが、子どもたちがそれにめげていない。職員もそんな中で何とかしようと努めてきてくれた。校長先生の決断も早くて良かった。今年の実験や判断は次年度に必ず生きると思う。
- ・PCR検査等、対象者が休日に判明したりして対応はなかなか大変だった。消毒も初めは大変だったが、簡素化されてきたことで時間がかかなくなっている。PTA役員が参加してくれたり、トイレ掃除をボランティアで行ってくださった方がいたりして、協力者がいたことはありがたかった。
- ・こういう状況下では、子ども本来の発散する姿や、素直に気持ちを出す姿が現れにくいのではないかと。黙っていればよいという消極姿勢にならないよう祈る。

④ ICTによる学習について

- ・ギガスクール構想の予算が出ている内に、タブレットPCなど整備していけるとよい。
- ・オンラインでの授業をはじめ、来年はできるのではないかといい工夫や対策が見えてきた。
- ・参観日もオンラインで行うというような工夫はできないか。
- ・就学前の保育園でも、ICT化に備えてその前の取組が必要か。ただ、逆に自然とのふれあいとか、人とのふれあい、身体を使うことのよさなどを体感させておきたい。

⑤ 学校評価やそこにある記述について

- ・保護者の記述に、学校に対して肯定的・好意的な意見が多く見られた。涙が出るほどうれしかった。「できるといいな」ということを実施してきたからだろう。子どもが前向きになれるように考え、主体的に取り組むようにやってきた証拠ではないか。
- ・現代は、保護者も含めて、人間関係をつくるのが苦手という方も多い。懇談等、たいへんだが人間関係の改善に努めてほしい。
- ・難しい要求をしてこられる保護者もいる。ただ非難するのではなく、「私も参加するから、情報をください。」という態度の保護者が増えてくれることを願っている。

⑥ その他

- ・次年度、通学班の班長に時計を持たせるのは良い考えだと思う。←現在、PTA役員が適切な価格・機能のものを探している。
- ・学校運営協議会に（保育・幼稚）園の代表が参加しているのはたいへんありがたい。情報交流とともに、学校との連携をこれからも大切にしていきたい。
- ・令和3年度「こどものすがた」の年2回配付と、個人懇談の充実について了承を得た。
- ・令和3年度学校運営協議会会長は伊藤氏が引き続き就任することを全会一致で承認を得た。

3 校長よりお礼の言葉